綾瀬市教育委員会会議録

令和５年７月定例会

令和５年７月２７日開議

綾瀬市教育委員会

出　席　委　員

教育長	袴田　毅　君
教育長職務代理者	田中　恵吾　君
委員	平出　恵子　君
委員	亀ケ谷　由美子　君
委員	齊藤　隆訓　君

事　務　局　職　員

教育部長	長谷川　裕司　君
教育総務課長	佐藤　三浩　君
参事兼学校教育課長	堺　千津子　君
学校給食センター所長	比留川　晋一　君
教育指導課長	渡邊　倫康　君
参事兼教育研究所長	生駒　美穂　君

書　記

教育総務課総務担当総括副主幹	奥田　塁斗
教育総務課総務担当主事	野尻　裕一

令和５年綾瀬市教育委員会会議７月定例会議事日程

令和５年７月２７日（木）午後１時３０分開議

日程第１		会議録署名委員の指名について

議案

日程第２	第１９号議案	令和６年度使用小学校教科用図書の採択について
日程第３	第２０号議案	令和６年度使用中学校教科用図書の採択について
日程第４	第２１号議案	学校教育法附則第９条の規定による令和６年度使用教科用図書の採択について

報告

日程第５	第８号報告	令和５年度第１回綾瀬市心身障害児童・生徒就学指導委員会で判定された児童の学校（学級）指定の報告について

午後１時３０分　開会

○教育長（袴田毅君）

あらかじめご報告をさせていただきます。

本日の会議には、傍聴の申し出者がございますが、定員を超えておりませんので、申し出のとおり傍聴を許可いたしましたことをご報告申し上げます。

なお、会議途中で傍聴の希望があった場合は、随時、入室を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより傍聴人の入室を認めます。

（　傍聴人入室　）

○教育長（袴田毅君）

ただいまの出席者は５名であります。定足数に達しておりますので、これより、綾瀬市教育委員会会議７月定例会を開会いたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第１　会議録署名委員の指名」をいたします。会議録署名委員に、亀ケ谷委員を指名いたします。

○教育長（袴田毅君）

議題に入ります前に、本日の議事日程についてお諮りいたします。

「日程第５　第８号報告　令和５年度第１回綾瀬市心身障害児童・生徒就学指導委員会で判定された児童の学校（学級）指定の報告について」は、個人情報が含まれるため、綾瀬市教育委員会会議規則第８条第１項第３号の規定により、非公開審議にしたいと存じます。

お諮りいたします。本件を非公開審議とすることについて、賛成の委員の挙手を求めます。

（　委員の挙手確認　）

○教育長（袴田毅君）

挙手全員であります。

よって第８号報告は、非公開審議とすることに決しました。

本日の審議は長時間に及ぶことが予想されますので、適宜、休憩を挟みながら審議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第２　第１９号議案　令和６年度使用小学校教科用図書の採択について」、この件を議題といたします。

それでは、本件に関し説明を求めます。教育部長、お願いいたします。

○教育部長（長谷川裕司君）

それでは、「第１９号議案　令和６年度使用小学校教科用図書の採択について」、ご説明いたします。議案書の１ページをご覧ください。

提案理由でございますが、中段に記載のとおり、令和６年度使用小学校教科用図書を採択するため、綾瀬市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第２条第１項第１４号の規定により提案するものであります。

小・中学校で使用する教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定により、種目ごとに一つの教科用図書を採択することになっており、採択されたものは、同法施行令で４年間使用することが定められております。

今回は、令和６年度から４年間使用する小学校の教科用図書の採択を行うものでございます。

採択に当たりましては、市の教科用図書採択方針に基づき、教科用図書採択検討委員会の調査研究結果を踏まえ、種目ごとに一つの教科用図書を市教育委員会で決定するものでございます。

令和６年度使用小学校教科用図書採択に係るこれまでの経過でございます。

教育委員会会議５月定例会で、綾瀬市立学校教科用図書採択方針をご審議いただき、決定いたしました。

教科用図書採択検討委員会の調査研究結果につきましては、大和、海老名、座間及び綾瀬の４市で組織する合同調査会からの意見や綾瀬市の調査員会からの意見、各小学校での教科書巡回展示の際に寄せられた学校からの意見、６月１３日から２６日まで市役所庁舎６階で開催した教科書展示会での閲覧者の感想・意見を参考としております。

教科用図書採択検討委員会において審議を重ねた結果を、「検討結果報告書」として７月１０日にまとめ、７月１８日には教科用図書採択検討委員会と教育委員の皆様で検討結果報告書を基にご協議いただきました。

令和６年度使用小学校教科用図書の一覧表につきましては、議案書の２ページをご覧いただきたいと存じます。

以上で説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは、これより本件に関しまして審議に入ります。

教育委員の皆様におかれましては、小学校で使用する全種目の教科書採択に当たり、時間をかけて教科書をご覧いただき、また、綾瀬市教科用図書採択検討委員会との協議、さらには臨時の協議会での意見交換など、積極的に検討・調査を行っていただき、ありがとうございました。

こうした一連の作業を通じて、お互いの共通理解が進み、教科書に対する意見や考え方が明らかになってきたものと考えております。

本日はこうした検討・調査を踏まえて議論し、令和６年度から本市の小学校で使用する教科書について審議・採択をしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

審議・採決につきましては、議案書の２ページに記載されている種目順に、１種目ずつ行ってまいります。

採決の方法につきましては、私が発行者名を順に読み上げますので、採択をすることに賛成の発行者名を読み上げたところで挙手をお願いいたします。

それでは、始めに「国語」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

それでは、種目ごとに採択検討委員会からの検討結果につきまして、ご報告をさせていただきます。

始めに、「国語」でございます。検討結果報告書の１ページから３ページをご覧ください。

「国語」につきましては「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書出版」の３者の教科書について検討いたしました。

３者とも、学習指導要領に示された言語活動例に基づき、各領域の資質・能力を育成するための題材としての工夫や配慮が感じられる教科書でございました。

「東京書籍」では、低学年の指導や支援が必要な児童への配慮が充実しているという点で評価されています。具体的には、１学年の教科書では文字の習得段階でつまずきやすい特殊音節や助詞について、特別支援教育の知見から生まれた指導法、「多層指導モデルＭＩＭ」が取り入れられていました。この指導法は特別支援教育を必要とする児童にとっても、外国につながりのある児童が多い本市の状況から見てもわかりやすく、効果的ではないかという意見がございました。

「教育出版」では、読書活動へのつながりが重視されているという点が評価できるという意見がございました。しかし、この読書活動へのつながり充実という点では、「光村図書出版」の方が、ページが多く充実しているという声もありました。

「光村図書出版」は、伝統的な読み物がたくさん掲載されており、新しい読み物も確かに重要と思うが、長年を通じて掲載されているものは、その歴史を経る中で残していく大事な要素があ

るという意見がございました。また、中学校へのつながりについて、卒業単元として「卒業するみなさんへ」、小学校で身に付けたい力を確認できる「中学校へつなげよう」が位置づけられておりまして、小学校６年間で学んだ力を中学校につなげられる工夫がある。そして全ての単元において、「問いをもとう」をきっかけとして学習が展開されており、児童自身の問いから目標へとつなげ、学習の見通しを明確にもてるような工夫がされているなど、学習の見通しを持つという意味や学んだことを生かす活動を丁寧に扱っているという意見がございました。

まとめますと、文学的な文章は長く掲載されている名作に加え、本の紹介が特に充実していたり、学習の見通しを持つという点や、中学校のつながりについて、学んだことを生かす活動を丁寧に扱っていたりするという点で「光村図書出版」の評価が高いという検討結果になりました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「国語」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

まず今回の教科書採択についてですが、小学校の全教科書を５月末から２か月間、来る日も来る日も読み続けて、感じた思いを伝えさせてください。

どの教科書会社も、子どもたちの理解を深める対策や、探求心を芽生えさせるための工夫など、細やかな配慮がなされていました。ＱＲコードを使っての学習には驚くばかりで、子どもたちが様々なコンテンツを使って、可視的に学習に取り組めるので、素直にうらやましく思いました。このような教科書を無償で受け取り、学べる子どもたちがとても恵まれた学習環境の中にいると思います。全ての教科書会社の方々に感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

これより「国語」についての意見をお伝えしたいと思います。

「国語」は他のどの教科にもつながる基本となる科目だと思います。言葉を大切に扱って欲しい、言葉で様々な人と関わってもらいたい。そのために、楽しく言葉について学んでもらえるのはどの教科書なのか、３者の教科書を、時間をかけて読みました。どの教科書も言葉を丁寧に扱い、語彙を豊かにするための取組や配慮をあちらこちらに感じました。

見通しや学習の流れが明確に示され、ヒントや問いかけをクリアにしながら、振り返りまで進めるつくりになっているので、どの教科書も学びやすく、色遣いも落ち着いていて、とてもよい教科書だと思います。読書を進める上でも、様々な本を紹介し、学校図書室や公立図書館の紹介など、本を好きになって欲しいという思いが伝わりました。

昔ながらの読み物が一番多く掲載されていたのは、「光村図書出版」です。子どもたちの音読

に毎日毎日付き合い、時には一緒に読んだりしたことを思い出し、とても懐かしく思いました。「はなのみち」や「スーホの白い馬」は、今読んでもほっこりしたり、涙が出たり、時代を超えて読み継がれて欲しいと思います。「『鳥獣戯画』を読む」は、久しぶりに読みましたが、やはり面白かったです。８５０年も前の絵が今も大切に保存され、「絵巻」という名称にはなっていますが、今で言う漫画やアニメの祖であるということの説得力が伝わってきました。子どもたちはどのように感じるのだろうと想像してしまいます。

「東京書籍」は、９７歳になる医師の日野原重明さんが執筆された「君たちに伝えたいこと」を掲載していました。「寿命」や「時間」について、６年生の子どもたちに向けた、温かく優しいメッセージがたくさん書かれていました。言葉の一つ一つに愛情を感じ、励まされる素敵な作品です。卒業を迎える６年生には、どのように響くのかなと、読んでもらいたいなと思いました。

そして最後に「教育出版」です。未来を切り開く努力と行動力を兼ね備えた女子教育の先駆者である津田梅子の生き方について学ぶことができます。新五千円札の顔になる女性なので、やはり子どもたちには知ってもらいたい人です。子どもたちは読んだ後に、新五千円札に映る津田梅子を見た時に、どんな思いがよぎるのかなと思いました。また、「言葉を増やそう」や「言葉の木」、「言葉の道具箱」、「言葉のノート」など、言葉について知識を高めるページもとても良かったです。

どれか一つに決めるのは非常に難しいことですが、「言葉」について様々な視点から学べると感じた、「教育出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見等はよろしいでしょうか。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、「国語」の教科では、子どもたちに美しい文学作品にたくさん触れ、言葉を大切にし、豊かなコミュニケーション能力を身につけて欲しいと思っています。そのような思いで採択に当たらせていただきました。

私が特に推薦したい「国語」の教科書は、「光村図書出版」です。

「光村図書出版」の教科書は、色合いや絵、文字のフォントなど、紙面全体が落ちついて読みやすい印象でした。また、「光村図書出版」は、私自身と私の娘たちも学んだ教科書で、何年経っても、読んだ時の感動が心に残る美しい文学作品が多く含まれていました。「くじらぐも」や「スーホの白い馬」、「ちいちゃんのかげおくり」など、「光村図書出版」にしか掲載されていない作品もあります。「光村図書出版」の教科書を子どもたちが家庭で音読することで、親子の

会話も弾み、感動を分かち合い、楽しい時間を過ごすことができるように思います。

また、５年生の教科書には点字と手話のページがありました。点字のあいうえお表に指先で触れて、点字文字を理解したり、指文字のあいうえお表を見て、手話によるコミュニケーションを学んだりすることで、視覚障がいや聴覚障がいのある方々がどのように言葉を表現しているのかを体験し、多様性について考えることができるように思いました。さらに、６年生の教科書には、谷川俊太郎の詩、「生きる」という作品があり、周りの人とともに生きる喜びや命の尊さを感じることと思います。そして、６年生最後の題材、「人間は他の生物と何がちがうのか」では、本文の最後に「人間と他の生物とのちがいの根源には、言葉があります。だからこそ、みなさんは言葉の力をみがかなければなりません。これが、学ぶということです。」とありました。まさにそのとおりだと心が動かされました。子どもたちが言葉を大切にし、言葉を使いこなし、自らの世界を豊かに成長することを願っています。

以上の理由から、私は「光村図書出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

はい、他にご意見はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

「国語」の教科書については、結論から申し上げますと、私も平出委員と同様、「光村図書出版」を推薦したいと思います。

「国語」で育成される力は、全ての評価につながります。問題の内容をつかんだり、筋道を立てて考えたり、あるいは説明したりする資質や能力は、全ての教科に大きな影響を与えると思っています。ですので、最も大事にしたい教科であります。

「国語」に限りませんが、児童が主体的に学習に取り組めるように、様々な工夫がされています。今日的な課題であるＳＤＧｓ、あるいは、ユニバーサルデザイン化の視点、配慮を要する児童への対応や特別支援教育の視点なども、さらには、ＱＲコードを活用したデジタルコンテンツが大変豊富に取り入れられています。

その中で、「東京書籍」は拗音、あるいは促音などといった特別な文字の習得における「ＭＩＭ指導法」を取り入れていらっしゃること、「教育出版」は児童の語彙力を豊かにする「言葉を増やそう」が単元ごとに設けられていました。高く評価したいと思います。

さて、私が推薦する「光村図書出版」については、「問いをもとう」が設けられています。これは語彙力とか、あるいは学習の見通しが明確にされていると自分は感じます。さらに、平出委員もおっしゃっていましたが、「スーホの白い馬」、あるいは「大造じいさんとガン」など、た

くさんの作品が学年ごとに設けられていました。

綾瀬市では、ゼロがつく１０、２０、３０日を「ゼロの日運動」という形で進めています。その児童のアンケートを見ると、その時間どんなことをしていますかという設問がありました。その中で、読書という時間が、かなり多くとられているように自分は感じました。そういう意味から、こういった名作は、子どもたちの読書活動に大きな影響をもたらすと感じています。

それから、長年のこういった作品は、保護者の方も読み込んでいらっしゃいます。ですので、家庭の中のコミュケーション、私は、僕はあの時こういうふうに読んでいたよという、親子の会話がより一層進むと考えました。

こうしたように、綾瀬市の読書活動の推進をさらに進めることを期待しながら、「光村図書出版」の「国語」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

それでは、小学校の教科用図書の採択にあたっての、私の考えを述べさせていただきます。

「国語」の教科書をはじめ、全ての教科書で採択にあたっての視点として、特に次の３つのことに注目しました。３つとも、綾瀬市が独自に設けている教科外調査員の報告を参考にしております。

まず一点目は、教科外調査員の報告にある外国籍児童・生徒の増加という本市の特性、それと、特別支援学級への入級を希望する保護者が年々増加しているという現状からの視点です。具体的には、教科書の写真やキャラクターなどに外国の児童や車椅子を使用している、障がいのある児童等を積極的に掲載しているかというような点に着目しました。

二点目の考慮としては、子どもが主体的に学び、自分の言葉で考え、伝え、振り返る活動が重視されているかという視点です。本市の教育委員会では、現在、綾瀬市型小中一貫教育を推進しています。その一つとして、授業での目標提示と、各振り返りの定着を図っています。また、主体的に学ぶためには、児童が読んで理解しやすいか、基礎基本の定着が図りやすいか、そういった点も重要になってきます。

三点目は、これも、教科外調査員が考慮するべきとして提言している点ですが、ＩＣＴを効果的に活用するという視点です。児童全員に配布されているタブレットを有効に活用できる教科書であることや、さらに今年の夏、ほとんどの教室に便利な機能を持つプロジェクターを綾瀬市では整備します。そのプロジェクターが活用できる教科書であることにも注目しました。以上です。

それでは、質疑・討論なしということで、これより、「国語」についての採択をいたします。

発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」０名です。

「教育出版」１名です。

「光村図書出版」３名です。

「光村図書出版」挙手多数であります。よって、「国語」については、「光村図書出版」を採択することに決しました。

続きまして、「書写」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に、書写でございます。検討結果報告書の４ページ・５ページをご覧ください。

書写につきましては、「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書出版」の３者の教科書について検討いたしました。どの教科書も、日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮がなされておりました。その中でも、「光村図書出版」は、２次元コードの動画が豊富で、学習する内容をすぐに確認できるようになっている等、丁寧に扱われておりました。

また、６年間の学びを振り返るということから、６年生の教科書で、これまで学んだところを振り返るための書写ブックがついており、毛筆・硬筆含めて、実生活に生かしていくというところが、非常にわかりやすく扱っているという意見がございました。

さらに、鉛筆の持ち方や道具の扱い方について、１ページ全部を使い、大きく写真で示してあるということや、大筆と小筆の片付け方が違うことをわかりやすく写真を使って教えていたりするなど、丁寧に説明されているという意見がございました。

「東京書籍」は、左利き・右利きを、同じ大きさの写真で掲載しているところが良いと感じたという意見がございました。

まとめますと、「光村図書出版」は、２次元コードが豊富に掲載されている等、丁寧に扱われている点、また、６年間の学びを振り返るという点で、非常にわかりやすく扱っている点、鉛筆の持ち方、道具の扱い方について、丁寧に説明されているという点で、「光村図書出版」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「書写」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も結論から言いますと、「光村図書出版」を推薦させていただきます。

「光村図書出版」は、鉛筆の持ち方や姿勢などが丁寧に記載されていたり、２年生の漢字の入

り方が、私が見てもわかりやすい。書き方がわかりやすいとか、そこを補足するために、２次元コードが使われていたり、そういう中で、わかりやすいと思いました。

また３年以降だと、筆や硯などの準備の仕方、片付け方、そちらのほうも丁寧に書かれており、知識・技能を習得させる基本ができているなと感じました。

「東京書籍」は、説明がちょっと短かったのですが、まず書いてみようというようなイメージを持ちました。その中で、僕としては良かったと思うのですが、自分は左利きで、その当時矯正されたということがありまして、右利きと左利きの方の持ち方が、同じサイズに載っているというのは、うちの息子自体も左利きなのですが、息子は矯正しませんでしたので、やっぱりそうすると、このページはかなり重要なのではないかなということも改めて思いました。

ただ、やはり文字を書くということに対しては、姿勢とかそういうところが一番わかりやすいことを鑑みると、「光村図書出版」が良いと思い推薦させていただきます。

○教育長（袴田毅君）

他にご意見はよろしいでしょうか。

はい、平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、美しい文字は読みやすいだけでなく、コミュニケーションを良好にすると思います。子どもたちには気持ちを込めて、文字を丁寧に書くスキルを身につけて欲しいと思います。そのような思いで、「書写」の選定に当たらせていただきました。

まず、１年生の硬筆に関して、基本となる姿勢や鉛筆の持ち方については、どの教科書も丁寧にわかりやすく説明されていました。文字の書き方の基礎については、「光村図書出版」と「東京書籍」の教科書は「とめ」、「はね」、「はらい」などが１ページごとに丁寧に説明されていました。

また、「教育出版」は、文字の濁点について「にじ」という文字の「じ」の点々は最後に書こうと書かれていました。細かいことのようですが、１年生の文字の基本として、濁点の説明まできちんとあったのは「教育出版」のみでした。

硬筆について、全学年を通して見ると、字形の説明が丁寧で、練習欄なども使いやすいと感じたのは、「光村図書出版」です。また、「光村図書出版」には、全学年にわたり「ことば」というページがあり、俳句やことわざ、詩などをなぞって書くことができます。言葉の意味や響きを感じながら、丁寧に文字を書くことが、将来の美しい文字につながるように思いました。

次に、毛筆についてです。３年生から毛筆の学習に入りますが、どの教科書も筆の穂先の向きや動き、筆圧などが、キャラクターなどを用いてわかりやすく説明され、初めて筆を持つ子でも、

楽しみながら字形を整えて書くことができるように感じました。

私が注目したのは、書き初めについてです。綾瀬市では、新型コロナウイルス感染症の影響で、近年、書き初めを行えなかった学校もあるようですが、長年書き初めを行ってきました。子どもたちにとって慣れない筆で、大きな紙に書くことは、集中力の要る大変な作業です。しかし、充実感もあり、日本の伝統に触れる素晴らしい機会だと思います。

「光村図書出版」の教科書では、お手本の他に別ページを設け、字形や文字の配置などのポイントもわかりやすく示し、また、迫力のある動画説明もあり、とても取り組みやすいと感じました。

最後にもう一点、私が最近の教科書はすごいと感じたのは、動画コンテンツについてです。私は書道を趣味としていますが、筆や墨、硯などの道具が、どのように作られるのか、全く知りませんでした。しかし、ＱＲコードを読み取ることで、書道の道具が作られる様子を見ることができ感動しました。

書道に限らず、他の教科でも教科書のＱＲコードを活用した動画学習は、効果的なものが非常に多くあるので、授業で上手に取り入れ、子どもたちの深い学びにつなげて欲しいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「書写」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」０名です。

「教育出版」０名です。

「光村図書出版」４名です。挙手全員であります。

よって、「書写」については、「光村図書出版」を採択することに決しました。

続きまして、「社会」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

続きまして、「社会」でございます。

検討結果報告書の６ページ・７ページをご覧ください。

「社会」は「東京書籍」、「教育出版」、「日本文教出版」の３者について検討いたしました。

どの教科書も、社会的事象に関する基礎的な知識や技能などを習得させるための工夫や配慮、児童が多面的・多角的に考えられるような工夫や配慮、さらに問題解決的な学習の視点で構成されている教科書でした。

中でも「教育出版」は、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」という見通しが持てる。今学んでいることが、どの段階なのかということがとてもわかりやすく示されている。地図等がわかりやすく、めりはりがついていて見やすい。初めて社会科を学習する３年生の教科書に、「社会科ガイド」という、これから社会科を勉強するに当たっての進め方が巻末に１０ページ近く掲載されており非常に丁寧である。近現代史の資料や、特に写真がカラーで施されていて、子どもたちにとって、現実に実感できる工夫がされている。横浜市を中心に、神奈川県を取り上げた題材が多く扱われており、児童の興味・関心を高められるようなカリキュラム編成が可能となっているといった意見がございました。

「東京書籍」は、地図の学習で、その土地の形に着目して、最初に導入をしているところが工夫されていてよい。３年生の教科書と４年生の教科書も、文字数が少なくて、ポイントが大きくなっているので、生活科から社会科になったときの３年生の教科書として良いといった意見がございました。

「日本文教出版」は、新聞の記事や情報の大切さについて丁寧に扱っているという点、また、問題解決についても丁寧に扱っているところが良いといった意見がございました。

まとめますと、児童が見通しを持って学習しやすい点。近現代史の資料についてカラーで施されていて、児童にとって実感ができる工夫がされている点。身近なものと他教科との関わりについて示されたページがあるという点。身近な題材が特によく扱われている点において、「教育出版」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「社会」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

社会では特に良かったと思うものが２者ありました。

「日本文教出版」は災害についてページ数を多く使い、自然災害から人々を守る行動につながり、道徳の教科書にも掲載されていた「稲むらの火」についての記載があったり、東日本大震災を事例に防災、減災に関する取組や、防災のための情報の働きなども取り上げ、神奈川ゆかりの人物では、村の復興に尽くした二宮金次郎についてのことが書かれていました。

日本の領土問題についてもしっかり記載され、歴史についてはテレビでよく見かける歴史学者の「磯田先生の歴史ノート」のコーナーがあり、歴史学習の楽しさを語りかけてもらえるつくりになっていました。

また、「未来につなげる」というＳＤＧｓのコーナーでは、日光の世界遺産に触れ、東照宮、二荒山神社、輪王寺について記載されていました。修学旅行で訪れる場所なので、内容も入ってきやすいと思います。

そしてもう一者は「教育出版」です。３年生の教科書については、１冊ほとんどが横浜市を題材に、まちの様子や働く人の暮らし、地域の安全などについて学べ、例えば工場で働く人については崎陽軒の工場など、子どもたちの身近な場所が題材になっているので、気持ちが入りやすいと思います。

領土問題についても、北方領土・竹島・尖閣諸島については、「一度も他の国の領土になったことがない、日本固有の領土です」としっかり書かれていました。ここまではっきり書かれていたのは「教育出版」だけだと思います。

現在の領土問題を解決するためには、どのように動き、進めていったら良いのか、しっかり学習して欲しいと思います。また、沖縄やアイヌの文化についても詳しく掲載されていました。

自然災害についても、かなりのページ数を使って、復興とあわせて書かれていました。

また、憲法についても、第９条については「非核三原則」などとあわせて、第１１条では基本的人権の尊重について、「ハンセン病と人権侵害」や「障害者差別解消法」などとあわせて詳しく書かれていました。

また、歴史については、幅６０センチメートルほどある日本列島の地図に、歴史上の出来事や人物、建築物が書かれていました。

歴史の学習に入る前や学習の途中で振り返って見られるので、楽しいと思います。

そして一番の特徴としては、歴史のモノクロ写真がカラーに編集されていたのがとても印象的でした。カラーになることで、昔の出来事という観念がなくなり、とても身近な出来事として捉える思考に変わる、不思議な感覚になりました。

真珠湾攻撃がカラーになっていたのが本当に衝撃的で、胸が詰まる思いになり、戦争の恐ろしさ、絶対に起こしてはならないことだと、子どもたちにも感じてもらえると思います。

以上のことから私は、「教育出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

結論から申し上げて、私も「教育出版」の教科書を推薦したいと思います。

３者とも、とてもキャラクター、あるいはカラー写真が本当に効果的に活用されていて、児童にとって、いずれも、わかりやすい教科書だと思います。

「東京書籍」は、ドラえもんのキャラクターが随所に使われていまして、とても親しみやすく、工夫されているなと思いました。デジタルコンテンツも充実していると思います。

「日本文教出版」は、今日的な課題であるＳＤＧｓに的を当てて、「考えよう！わたしたちのＳＤＧｓ」コーナーが３２か所、報告もありましたが、設けられています。果敢に臨まれていると思いました。

それから、私が推薦した決め手になりますが、「教育出版」には、初めて教科書を見る３年生、教科書の表紙の写真が、神奈川県横浜市にある赤レンガ倉庫の写真でした。

これは、身近な題材が用いられていることで、「行ってみよう」、「調べてみよう」といった考えや思いが強くなり、社会をもっと勉強してみよう、そんな思いになるような気がしています。そのほかにも、神奈川県の実践事例、取組、あるいはインタビューがたくさん使われていました。

それから、６年生の歴史の学習では私が育ったところの、長州藩の砲台の写真が載っていました。これは、もともとは白黒の写真であったものが、最近のＡＩを活用して、カラー写真になっていました。これはとてもインパクトのある、私には衝撃的な写真でした。

こういったものが、「教育出版」の教科書には５２点載っていると書かれておりました。本当にインパクトが強かったです。

こうしたことから、３者とも本当に素晴らしい教科書だと思いましたが、総合的に判断して、「教育出版」を推薦いたします。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「社会」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」０名です。

「教育出版」４名です。挙手全員であります。

よって、「社会」については、「教育出版」を採択することに決しました。

続きまして「地図」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に「地図」でございます。検討結果報告書の８ページをご覧ください。

「地図」は「東京書籍」、「帝国書院」の２者について協議・検討を行いました。

どちらの教科書も児童が主体的に取り組み、地図を読み取る技術を身につけるための工夫や配慮があり、児童の発達段階に応じた工夫がありました。

「東京書籍」、「帝国書院」どちらも３年生の導入等が丁寧に扱われておりました。

その中でも、「帝国書院」の地図帳は大きな地図や手順の使い方、見方などが丁寧に書かれていること、初めて地図帳を使う３年生向けの地図が別で充実していること、また、まちの様子を地図に表すときに、斜め上や、上から見たり、写真を使ったりするなど、地図の表し方が工夫されているという点、地図マスターへの道というような課題や発展的な内容が掲載されており、学習を深めることができるという工夫があるという点で、「帝国書院」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「地図」に関しまして、質疑・討論がございましたら、お願いいたします。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

地図帳はとにかく見やすく調べやすいものが良いと思っています。

「東京書籍」は、日本の領土のページに北方領土、竹島、尖閣諸島の記載がなく、竹島は中国地方のページ、尖閣諸島は南西諸島のページに記載されていました。それはどうしてなのかなと思いました。

地図全体に対しては情報量が多過ぎて、色遣いも少し濃いからなのかごちゃごちゃした感じに見えてしまいました。

良かったところとしては、日本と世界の主な湖と火山のページで、比較のあらわし方がとてもわかりやすく、見ていて楽しかったです。

そして５００万分の１の日本列島の全体図が掲載されていたのも良かったと思います。

そして、「帝国書院」ですが、こちらは日本固有の領土として北方領土、竹島、尖閣諸島がきちんと掲載されていました。

また、明治初期と第２次世界大戦後の日本の領土の移り変わりの地図も載っていたり、「江戸時代の結びつき」として、戦国大名のお城、加賀藩の参勤交代ルートや五街道と宿場などの地図

もあったりして大変楽しく読むことが出来ました。歴史の学習でも参考になると思います。全体的にもバランスよく調べる楽しみを感じられる教科書だと思います。

ただ一つ残念に思うのは、５００万分の１の日本列島の全体図がこちらには掲載されていなかった点です。例えば近畿地方や中部地方は、何となく位置があやふやになりがちなので、最初に全体の地図を見てから場所を確認して、地方の部分地図に移る見方が出来たら理解度も高まると思うので、次回はぜひ、日本列島の全体図も載せてほしいと思います。

以上、次回の期待も込めて、私は「帝国書院」を推薦いたします。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

私は、「地図」については、「東京書籍」を推薦したいと思います。

推薦した理由は２つあります。

確かに、「帝国書院」もすばらしく、わかりやすい内容だと本当に思いました。その中で、先ほども言ったように、「東京書籍」の「ホップ　ステップ　マップでジャンプ」というコーナーが設けられています。この「ホップ　ステップ　マップでジャンプ」は、単に地図から探したり、見つけたりするだけではなく、地図から考えるような問題がたくさんあります。これも地図帳に興味を児童が持つ大事な要素だと思っています。

それから、デジタルコンテンツになりますけれど、「がんばりシート」というものがございました。それは、「ホップ　ステップ　マップでジャンプ」で得られた星の数をシートに貼っていくというもので、４年間で全世界を一周するというようなものでした。これも非常に高く評価したいと思います。

そして、最終的に決め手としたのは、綾瀬の子どもたちの実態からであります。綾瀬はご存じのように、外国籍の子どもたちが多数在籍しております。小学校につきましては、１０校のうち５校に国際教室が設けられています。初めて見る地図帳の最初のページに着目してみました。

東京書籍の「地図のぼうけんに出発！World Map」でありますけれど、これには、ちょっと文字が小さくて見づらいかもしれませんが、世界各国の名前が正式な名称で綴られていました。

先ほども言ったように、多くの外国籍の子どもが見た場合に、初めて出会った見開きの１ページに生まれ育った母国の名前が無いことを考えたとき、とても残念がるだろうな、寂しいだろうなと思いました。

こういった綾瀬の子どもたちの実態を考えて、私は、「東京書籍」の「新編　新しい地図帳」

を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

それでは、質疑・討論なしと認めます。

これより、「地図」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」１名です。

「帝国書院」３名です。

「帝国書院」挙手多数であります。よって、「地図」については、「帝国書院」を採択することに決しました。

続きまして、「算数」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に「算数」でございます。

検討結果報告書の９ページから１２ページをご覧ください。

「算数」につきましては、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「新興出版社啓林館」、「日本文教出版」の６者について検討いたしました。

どの教科書にも、つまずきに対する支援の仕方や、数学的な見方・考え方についてのわかりやすい記載など、様々な工夫があり、子どもたちにとっても、教える側にとっても、使いやすい教科書になっていました。

特に「東京書籍」、「大日本図書」、「新興出版社啓林館」の３者は、デジタル教材の掲載数も多く、入学当初の１年生に力を入れるために、わかりやすいイラストを豊富に掲載し、具体物の操作がしやすく、直接書き込めるＡ４サイズの別冊をつける等の工夫が見られました。

中でも「東京書籍」は、数学的な見方・考え方を児童に身につけさせるために、既習事項とのつながりを示し、紙面の随所に子どもの言葉で、学習で大事なことが散りばめられていて、統合的・発展的、また、創造的に考えられるような工夫がありました。

また、単元ごとに重要なことを振り返り、児童が学習を積み上げていけるような工夫もありました。

「新興出版社啓林館」は、関係図の書き方について掲載し、児童が自分に適した方法で数量の

関係を捉えることができるよう工夫されておりました。

「大日本図書」は、巻頭に問題解決学習の流れを示し、会話を通して学びを深めることができるよう工夫されていました。

まとめますと、数学的な見方・考え方が児童に身につくよう整理されているという点、低学年に力を入れて、つまずきに対する支援や振り返りを重視し、学習を積み上げていけるように工夫されているという点で、「東京書籍」の評価が高いという報告がありました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「算数」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、「算数」の教科書は、子どもたちが楽しみながらしっかりと基礎学力を身につけることができる教科書として、「東京書籍」を推薦したいと思います。

「東京書籍」の教科書は、１年生の最初の教科書がＡ４判でノート一体型となっており、他の教科書よりも、算数ブロックの絵がリアルなため、教材として、算数ブロックを扱いやすく、子どもたちが学習に集中できるように感じました。

また、問題の出題の仕方に、子どもたちの好奇心を引く要素があり、説明がわかりやすく、学習の流れがスムーズに進められるように感じました。

会話文での解説や、話し合い場面への展開も多く、アクティブ・ラーニングにつながるように思いました。

さらに、ＱＲコードによる動画コンテンツの内容が充実しており、教科書のページに即した問題を解くことが出来ました。問題に正解すると、大げさなくらいに褒めてくれる機能は、子どもたちに達成感や自信を与えてくれると思います。ちなみに不正解の場合も、「残念」ではなく、「頑張ったね」と褒めてくれるので、何だか嬉しい気持ちになり、これはハマると思いました。

コンテンツの操作性も使いやすく、授業に限らず、家庭学習としても利用できるので、算数に興味を持つ子が増え、充実した学習ができるように感じました。

以上の理由から、私は「東京書籍」の教科書を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も「東京書籍」を推薦させていただきます。

今、日本の子どもたちというのが、理数系の子がどんどん減っているんですね。「算数」が苦手とか、その中で、やっぱり最初の１～２年、その数字をどう取り扱うかというのが、ものすごく私の中では大事だと思っていまして、例えば１年生だと、数でつまずかない、２年生はかけ算、３年生はわり算、４年生は単位というようなステージがあるのですが、まず「東京書籍」の場合は、最初の数字に対する導入部が、Ａ４サイズの冊子になっていまして、とても丁寧に進められているなと感じました。

これは、「算数」を苦手な子にしないためにしている意図を、すごく冊子の中で感じました。この１－１の中で、数に関しては、質問しながら数えさせて、その後、ページの中で、自然とたし算とひき算がイメージできるようになっている資料になっているなと思いました。

それが１－１で終わって、それに基づいて自然と１－２でたし算に入るようになっています。これはもう、ものすごくわかりやすいと私は感じました。

２年生に関しても、かけ算なのですけれども、そちらも写真とブロックをうまく使って、イメージでかけ算が想像できるような内容になっておりまして、つまずくというより、イメージでスタートさせる、かけ算は、かなりひっかかりますので、九九とかですね、やっぱりそういう面ですごくわかりやすいなと思いました。

最後の６年生が、今度中学校に上がるまでに、すごく大事なのですけれども、６年生では問題と計算のレイアウトがすごくわかりやすくて、特に文章題に関しては、解き方の説明、これは国語とか、文章の読み方というのも影響してくるとは思うのですけれども、わかりやすく説明されていまして、そこの教科の中に、メモも書きやすいスペースがありまして、中学の進学の際には、文章題というのが重要になりますので、うまくつなげることができるかなと思っております。

さらには、６年生の最後で１年生から５年生までの振り返りができるということで、中学生に上がる時に、もう一度、これできているかなというような見直しができるというのは、ものすごく良いなという理由から、「東京書籍」を推薦させていただきます。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

「算数」は、教科の中で一番つまずきやすい科目ではないかと思います。そのためか、各教科書会社は、スタートブックを用意したり、４年生までの教科書を上下巻と分けたり、６年生の別冊で中学への準備教材が用意されたりと、子どもたちに負担がかからないよう、様々な配慮がなされていると感じました。

また、「算数」で、最初につまずきやすい状態になるのは３年生かなと思っています。１・２年生では、２個のリンゴと３個のリンゴ、合わせて幾つのような、具体的にイメージできる計算ですが、３年生になると、３分の２のような分数や０．３のような少数も出てきます。それを足したり引いたりするだけでなく、図形まで登場します。こうなってくると、具体的にイメージすることが難しくなってくる児童が出てきてしまうのではないかと考えています。

また、「算数」の問題を解くのに一番必要な力は、文章問題を読み解く力と復習だと思っています。その補助として、イラストや図、表やグラフ、ヒントになる言葉など、伝えるための工夫と、よりわかりやすく復習できる作りが求められる教科だと思います。

以上のことを踏まえ、読み込んだ結果、一番良いと思ったのが「新興出版社啓林館」でした。教科書のサイズも紙質も色遣いも落ちついていて、何よりもキャラクターが控え目で、問題や解き方の説明を邪魔していない、一番シンプルなつくりでわかりやすい教科書だと思います。

各学年を通して、つまずきへの対応もしっかりされていて、「学びのまとめ」や「たしかめよう」、「ふりかえろう」では、きちんと、単元ごとに、見方・考え方を確認できるつくりになっていて、とても丁寧につくられた教科書だと思います。

それから、解説動画も素晴らしく、予習や反転学習はもちろん、学校を欠席した時や、不登校児童の自宅における学習の心強い教材になると思います。

以上のことから、私は、「新興出版社啓林館」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

私も結論から申し上げますと、「新興出版社啓林館」の教科書を推薦したいと思います。

以前、児童から、「算数はなぜ勉強するの？」と聞かれるような時がありました。そんな時に、私は「算数で学んだことが日常の生活の中でも多く使われているんだよ。だから、算数を勉強していこうね」と答えることが多くありました。そういう視点から考えて、「新興出版社啓林館」の「学びをいかそう」、さらには、６年生の教科書の「未来へのとびら」では、お仕事インタビューというのが多く割かれていました。

ここでは学びの、あるいは「算数」の考え方、それが一般的に生活の中でどのように生かされているのか、そういったことが書かれていました。とても大切な視点だと思っています。

それから、「新興出版社啓林館」の教科書は、スモールステップを踏んで、具体的な操作方法などが提示されていると思いました。

それから、これも「新興出版社啓林館」に決めたひとつの理由なのですが、主問題というものには「めあて」があって、さらに解説動画というものがございました。この解説動画については、私も、割合の部分を見ましたけれど、とてもわかりやすくなっていて、学校で学んだことを、おうちに帰って、家庭学習、自主学習、主体的な学習ができるなと思いました。

さらには、おうちの中で、保護者に子どもが質問した時に、この内容を見ることで、学校ではこのような教え方をしている、ということを把握することができるのではないかと私は感じました。

以上のことから、私は、「新興出版社啓林館」の「わくわく　算数」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「算数」について採決いたします。

発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」２名です。

「大日本図書」０名です。

「学校図書」０名です。

「教育出版」０名です。

「新興出版社啓林館」２名です。

それでは、過半数に達しておりませんので、私の意見を述べさせていただきます。

まず、どの教科書も、「算数」におけるつまずきを解消するための工夫が見られました。

さらに理解に時間を要する児童、それに対して理解が早い児童とで、習熟の度合いに応じて学習を進められる工夫がされていました。

その中で、「算数」の教科書では、一点目として、「算数」が好きになるよう、低学年に力を入れ、就学前の生活経験を「算数」に置き換えるページを設定し、幼から小への移行をスムーズにしている点、二点目として、写真を多く採用し、学んだことを生活の中に活用していくことができるようになっていることで、主体的な学びが期待できる点、三点目として、既習事項により、児童の自力解決が導かれ、補助発問により発展的な学びにつながり、学習内容が確実に定着できるように工夫されている点、以上の三点から、私は「東京書籍」を採択することに賛成であります。よって、「算数」については「東京書籍」を採択することに決しました。

ここで暫時休憩といたします。再開は、２時５０分といたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは再開します。

続きまして、「理科」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に、「理科」でございます。

検討結果報告書の１３ページから１５ページをご覧ください。

「理科」につきましては、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「新興出版社啓林館」の５者の教科書について、検討いたしました。

どの教科書も、デジタルコンテンツを豊富に導入し、振り返り・確かめ等を丁寧に扱う工夫があり、子どもたちの興味・関心を引き出すつくりの教科書になっておりました。

中でも「東京書籍」は、全ての単元で、導入に課題を掴むための活動を設定しており、見開き２ページにわたって、単元に関連する写真を掲載し、児童の身近な場面から課題を設定することで、対話を通して思考を広げることができるような工夫がありました。また、中学校へのつながりを意識して記載する工夫が見られました。

「大日本図書」にも、中学校へのつながりを意識した記載があり、発展的な内容を多数掲載することで、児童の知的好奇心に応えるとともに、知識と教養を高められるよう工夫されておりました。

まとめますと、写真を効果的に配置した紙面の見やすさ、中学校へのつながりを意識できるよう工夫されているという点で、「東京書籍」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「理科」に関しまして、質疑・討論がございましたら、お願いいたします。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

「理科」では３者に目が留まりました。

「教育出版」は、学年の巻頭には前年度で学んだことが、巻末にはその学年で１年間学んだことが単元ごとにまとめられていました。それぞれどのような力がついたのかを振り返りながら、復習できるとても良いつくりになっていると思います。

さらに資料では、台風の断面図が見開きページに大きく掲載されていたり、人の体のつくりに関しても、構造を見開きページによって全面と背面がほぼ実物大で載っていたり、心臓と血管の関係についても、イラストと色遣いにより視覚的に捉えやすく、とても良い資料だと思います。

また、「広がる科学の世界」では、０．１ミリメートルより小さいミドリムシが、地球規模の様々な問題を解決できるのではないかと注目されていることが掲載されていまして、科学の知識

の素晴らしさを感じることが出来ました。

次に「東京書籍」です。最初は、教科書のサイズが少し大きいかなと思いましたが、その分中身がとても見やすくなっていました。

学び方としては「問題をつかむ」、「調べる」、「まとめる」、「注目する」、「振り返る」で構成されていて、振り返り後、さらに「たしかめよう」があり、練習問題を解きながら学んだことを確かめることができます。

また、実験については「思い出そう」、「問題をつかもう」、「問題」、「計画しよう」で実験となり、その後「考察しよう」、「まとめ」となっています。

問題解決の過程を一本の「学びのライン」でつなぎ、ステップごとの区切りがはっきりしているため、自然な目線の流れで読み進めることができるつくりになっていたので、非常にわかりやすい教科書だと思いました。

そして最後は「新興出版社啓林館」です。特に優れているのは、詳しく楽しい資料の充実度だと思います。「理科」に対する好奇心や探究心を引き出してもらえる資料があふれています。

「池や川で見られる小さな生物」では、１０倍に拡大した水中のメダカの口元にケンミジンコ、ボルボックス、ミジンコが浮いている写真があり、とても楽しくメダカの視線で見られました。

「いろいろな雲と天気」では、１０種類の雲の図と実写の写真が掲載され、雨が降る時の雲がどれかわかります。空を見上げる子どもたちが増えると良いなと思いました。

また、「with the Earth」では、自然災害から身を守り、防災力を高めるための工夫や、化学の視点で捉えた防災、減災、自然からの恵みなどについても細かく掲載されていました。

また、「理科の広場」では、例えば、エシカル消費についての意味合いなど、サステナブルやＳＤＧｓなどの基本になり、子どもたちでも毎日の生活の中で、ほんの少し意識を変えればできる取組なので、取り上げてもらえていることがとても嬉しかったです。

その他、環境問題については、中学への発展ページに「ブルーカーボン」についても掲載されていました。

「理科」を通して、さまざまな日常生活に関わる問題に触れ、的確な資料とともに掲載されていたのが良かったです。観察、実験の手順に関しても、「学びのライン」に沿って丁寧に記述し、見通しを持って進めていけるつくりになっていました。

「理科」の採択は本当に迷ってしまいますが、私は以上の３者から、採択したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私は「東京書籍」を推薦したいと思っております。

「理科」に関しては、私は実際の体験、実験とか、観察とかですね、そちらで「理科」に興味を持ってもらう。そういう認識で見た中で、やはり写真と実験内容が、「東京書籍」はわかりやすくて、教科書にメモが書けるようになっている点、また実験内容に関しても、そんなに突拍子もないことをやっているわけではなくて、学校にあるような実験道具の機材でできることが多く、子どもにより体験する回数が増やせるのではないかということを感じました。

また観察に関しても、写真とイラストをうまく使い、わかりやすいと思いました。

振り返りのところも写真ではなくて、手書きのイラスト。こちらのほうがすごく柔らかく伝えられる。理数系というのは、どうしても苦手な子が増えてきてしまう中で、興味を持ってもらうということは、この柔らかさというのがすごく重要だと私は思っております。特に私として面白かったのは、「理科の世界たんけん部」というページがあって、そこは習ったことが、実際にどのように使われているかということがありまして、振り子のところでは、振り子の原理を使って、スカイツリーの振動抑制に使われているとか、あと今度は地質を学んだ際には、日本で恐竜の化石の見られるところというのも、場所の記載がありまして、実際、学校から離れて家族で行くとか、そういうところでの経験を積むにも、この「理科の世界たんけん部」というのがすごく私としては興味を引きました。

以上の理由で、「東京書籍」を推薦させていただきます。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見等はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「理科」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」３名です。

「大日本図書」０名です。

「学校図書」０名です。

「教育出版」０名です。

「信州教育出版」０名です。

「新興出版社啓林館」1名です。

「東京書籍」挙手多数であります。よって、「理科」については、「東京書籍」を採択することに決しました。

続きまして、「生活」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に、「生活」でございます。

検討結果報告書の１６ページから１８ページをご覧ください。

「生活」につきましては、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「光村図書出版」、「新興出版社啓林館」の６者について検討いたしました。

どの教科書も、それぞれの特色を出し、工夫が凝らされた作りの教科書になっておりました。中でも「東京書籍」は、写真も大きく、子どもがはつらつとしている表情と、見やすいという点、「めあて」のキーワードが示されていて、学び方が記載されているという点でとてもわかりやすくなっている点、また、いろいろな要素も入っているのと同時に、学習障がいについても配慮がされているという点が評価できるという意見がございました。

「教育出版」は、迷路にたどり着く工夫や、中身を見たいと思わせるような工夫、生き物の声など、興味をそそる記載、さらには、写真が大変きれいであるという点が評価できるという意見がございました。

「光村図書出版」は、児童に疑問を投げかける４コマ漫画の工夫、振り返りの促しがされているという点、また、「ひろがるせいかつじてん」の写真が大変きれいで、いろいろな場面で使え、キャラクターが使われていて、読み物としても読める点が評価できるといった意見がございました。

まとめますと、子どもの興味をそそる、それらを高める、そして、見やすく活用しやすいという点で、「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書出版」の３者の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「生活」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

「生活」は小学校での学びの始まりであり、生活していく上で様々な気づきに対して興味・関心を持つことにより、あらゆる学びにつなげていける教科だと思います。今回は、６者の中からの採択ということで大変悩みましたが、その中で特に印象に残ったものが、２者ありました。

一つは「新興出版社啓林館」です。特に優れた箇所としては、探究心を引き出す資料の豊富さで、「びっくりずかんＬＩＶＥ」の完成度にとても感心しました。春夏秋冬それぞれの草花や旬の野菜などはどの教科書会社にも掲載されていましたが、「新興出版社啓林館」はさらに、季節の「音」がＱＲコードを使って聴けるつくりになっていました。例えば春であれば、「はるのおと」としてウグイスやシジュウカラの鳴き声が聴けました。

また、「おちばコレクション」ではたくさんの落ち葉の写真が載っていて、これは編集者の方や研究者の方々が実際に採取した落ち葉で、できるだけ状態が良く、なおかつ特徴がよく分かるものを、何百枚もの写真の中から選び抜かれたものだそうです。

同じく、「どんぐり大けんきゅう」のどんぐりも、たくさんの種類のどんぐりや実物大の写真がページいっぱいに掲載されていました。

落ち葉との違いは、どんぐりそのものだけで種名を判断するのはとても難しいことなので、どんぐりを採取する際には、葉や樹皮なども必ず確認した上で、種名を特定したとのことでした。図鑑を見る子どもたちのために、「本物を伝えたい」というつくり手の思いがとても感じられました。

そしてもう一つは「光村図書出版」です。

「『せいかつ』はいろんなきもちでできている」、「きみがしっているきもちもあるし　まだしらないきもちもある」、「あたらしいことをならったりしてみたり　そのことであたらしいきもちがひとつずつふえていく」と、教科書の最終ページで子どもたちに語りかけています。

生活の中で生まれる子どもたちのたくさんの気持ちに寄り添いながら、失敗しても大丈夫、人と違ってもいいんだよ、自分が感じたことや思ったことが大事なんだよというメッセージが、単元ごとに絵本作家の方のコーナーで伝えられています。

心がほっこりしたり、励まされたり、学びのきっかけや支えになるメッセージがたくさん書かれていました。

導入からの展開では、「学びのヒント」で子どもたちが活動の中で考えを深めるための手がかりが示されていて、つまずいたときや試行錯誤をするときに大切になる考え方や活動、表現のバリエーションのヒントがありました。

「ふりかえろう」では、感情の振り返りと思考・行動の振り返りに加え、単元末のページでは、「今のあなたの気もちを書こう」というコーナーで、単元での学びを対話の中で振り返り、自分の言葉で語れるつくりになっていました。

また、上下巻についている別冊の「ひろがるせいかつじてん」では、子どもたちが知りたい内容に応じて活用できる資料がまとめてあり、上巻末には、汚れにくく野外でも活用しやすい生き

物図鑑の「きせつのなかまたち」が教科書から切り離せる作りで用意されています。

子どもたちの、新しく始まる「せいかつ」の中で起こる発見や、気持ちに寄り添った思考への導きにより、安心して学習に取り組める教科書だと思いました。

以上のことから私は「光村図書出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見等はよろしいでしょうか。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、「生活」は、子どもたちが生き物や自然と触れ合い、人とのつながりに生きる喜びを知る科目だと思います。子どもたちには「生活」でわくわくしながら、楽しく学んで欲しいという思いで選定させていただきました。

どの教科書も大変興味深いものでしたが、特に素晴らしいと感じたのは、「教育出版」の教科書です。

「教育出版」の教科書は、絵よりも写真をメインにしており、植物の成長の様子や昆虫の脱皮の様子などが、その段階ごとに複数の写真を用いて、わかりやすく説明されていました。

子どもたちからは、「へえーすごい！こんな風に成長するんだ」という声が聞こえてくるような気がしました。

また、春夏秋冬を見つけるという題材の四つの見開きページでは、季節ごとに変わる街の様子がとても細かく、「ウォーリーをさがせ！」のような雰囲気で描かれていました。４つの四季のページを比較してみると、自然の変化はもちろん、商店街で売られている商品や、そこに暮らす人々の服装や伝統行事など、私たちの生活に関わる様々な要素が季節ごとに変化する様子を発見することができ、楽しみながら「生活」について学ぶことができるように感じました。

さらに、他にも興味深かったのは、下巻の果物と野菜のクイズのページです。野菜と果物の断面写真と、「しゅん」はいつでしょう？というクイズがありました。しかし、答えはそのページにはなく、「答えはこの本のどこかにあります」と書かれていました。私は答えがなかなか見つからず、近くにいた人を巻き込んで、２０分ぐらいかけてようやく見つからないように隠れていた答えを見つけ出しました。子どもたちも、わくわくしながら答えを探すことと思います。

「教育出版」の教科書には、子どもたちの主体的な学びをもたらす仕掛けがたくさんあり、綾瀬の子どもたちにもぜひ読んで学んで欲しいと思いました。

以上の理由から、私は「教育出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私は、「光村図書出版」を推薦したいと思っております。

「生活」という科目は理科の部分や社会の部分など、総合教育的なスタートカリキュラムになっているということを聞きまして、幼稚園から小学校に上がった時に、いろんなことが不安だと思うんですね。その時に、やっぱり写真やイラストがバランスよく配置されていて、少し絵本に似たような教科書のつくりになっておりまして、そちらのほうがすごく見やすいと。また綾瀬では２年生のときにまち探検のような授業があって、そちらのほうでは実体験が出来ますので、そういう面では写真の部分と、あと戻ってきたときに友だちと、やっぱり一緒に同じクラスの子と行きますので、そのときの人間関係とかイラストで、声のかけ方とか、やはりそういうところを読んで、お互いを思いやるような、そういうイメージの教科書が良いと思いまして、「光村図書出版」を推薦させていただきます。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

結論から申し上げますと、私は、「教育出版」を推薦したいと思います。

本当にどの教科書もすばらしく、選択するのに悩んだというのが正直なところです。特に、「光村図書出版」、「東京書籍」も大変すばらしく、写真やカット、こういったものを効果的に使っていまして、素晴らしいなと思いましたが、最終的に「教育出版」を推薦した理由は、「はっけんロード」というものによって、すごく子どもたちが興味・関心を持って生活の学習にあたることができると思いました。

それから、他の会社も、いろいろなキャラクターを使っていますが、「教育出版」の「いぐら君」、このキャラクターも大いに子どもたちの興味・関心を引いて、「調べてみようかな」、「行ってみようかな」、そういったわくわくした気持ちを醸し出していると思いました。

その他にもたくさんの写真、大きな写真と小さい写真とをうまくミックスさせて、子どもたちに、興味を持たせていると思いました。

単元の始めで多く見られたのですが、１ページに大きな写真を使って、そこに短い文章が書かれています。こういったところも、子どもたちに考えさせるきっかけになっているなと自分は感じました。

「生活」は、子どもたちの自然や身近に起こることに興味・関心を抱かせて、３年生以降の「社会」や「理科」といった学習につなげていく。このことがとても大事だと自分は感じています。

以上のようなことから、私は、「教育出版」の「せいかつ」という教科書を推薦します。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「生活」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」０名です。

「大日本図書」０名です。

「学校図書」０名です。

「教育出版」２名です。

「信州教育出版社」０名です。

「光村図書出版」２名です。

ここまでで、全員の挙手が終了しましたが、過半数に達しておりませんので、私の意見を述べさせていただきます。

「生活」という教科は、児童の生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験を重視し、具体的な活動や体験の中で、様々な気づきを得て、自立への基礎を養うことを狙いとしていますが、その点では、どの出版社も、具体的な活動や体験の中から、様々な気付きが生まれるような工夫がされていました。

その中で、私は「生活」の教科書では次の４つに注目しました。

まず一点目ですが、児童の興味がそそられるよう、文字の大きさやフォントが工夫されていたり、イラストやキャラクターが用いられたりしていて、その上、写真がきれいで見やすいこと。二点目は、外国籍児童が増加している本市にとって、写真やイラストに外国につながりのある児童が多く登場するよう意識されていること。三点目は、「活動終わって学びなし」とならないよう、しっかりと学習の振り返りをさせていること。四点目は、他教科との関連が明確に示され、しかも、中学年以降への学びにつながる構成となっていること。以上の４点です。

他の教科書でも、上記の４点のうち、いくつかが意識されているものもありましたが、総合的

に評価して、私は、「教育出版」を採択することに賛成であります。よって、「生活」については、「教育出版」を採択することに決しました。

続きまして、「音楽」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に、「音楽」でございます。

検討結果報告書の１９ページ・２０ページをご覧ください。

「音楽」につきましては、「教育出版」、「教育芸術社」の２者について検討いたしました。

どちらの教科書とも共通して、「表現」と「鑑賞」の教材についてはバランスよく、多様な音楽の中から、児童の発達段階に応じて適切に選択されておりました。

また、どちらの教科書も、体を動かすような動きであったり、演奏などでは、二次元コードで楽曲の解説や、演奏の動画が参照できるようになっていたりと工夫が見られました。

その中でも、特に「教育出版」の教科書は、字が比較的少なめで、写真等が効果的に使われていて曲のイメージを持たせやすくなっている点。１年生から６年生まで同じ共通教材として「さんぽ」、「音楽のおくりもの」の２曲が全学年の教科書に取り上げられている点。また、２年生では九九の歌、３年生では単位の歌など、他教科との関連を意識した教材やコラムが掲載されている点。１年生では「きらきら星」、２年生では「こいぬのビンゴ」、３年生では「小さな世界」が紹介されており、日本語で歌唱した後、英語でも歌うことができるなど、児童にとっても親しみながら、英語の歌を歌うことができる点。「エーデルワイス」という教材が、３年生ではなく、４年生で扱っているので、今の綾瀬の子どもたちの学びに合っているという点。「サウンドオブミュージック」という鑑賞教材が「教育出版」のみ扱われているという点などから、「教育出版」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「音楽」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、「音楽」は心を豊かにし、人生を輝かせる素晴らしいものだと思います。子どもたちには、元気に歌ったり演奏したり、楽しみながら学んで欲しいと思っています。また、様々なジャンルの音楽や歴史文化に触れて、「音楽」を好きになって欲しいと願っています。

そのような思いから、「教育出版」と「教育芸術社」の２つの教科書を読ませていただきました。

「教育芸術社」の特徴として、学びが見えるという点があります。見つける、考える、歌うといった三つのステップを通じて、学び方が示されています。学びの段階が丁寧に示されているので、わかりやすいと感じました。ただ、１年生のまだ文字に慣れていない最初のページから、このスリーステップがしっかりと書かれている点や、全体的に文字が多く感じてしまう点に少し疑問を感じました。

しかし、子どもたちが興味を抱くような楽曲が多くあり、５年生の「アフリカンシンフォニー」の合奏がオーケストラの参考曲として挙げられているため、迫力のある演奏が期待できるように感じました。また、６年生の教科書では、著作権についてもしっかりと取り上げられている点も好感が持てました。

一方、「教育出版」は、もっと子どもたちの感性を大切にして、心のままに歌ったり演奏したりすることができるように感じました。

３年生の「ふじ山」や６年生の「おぼろ月夜」などは、見開き３ページの大きな紙面に美しい写真と歌詞のみが掲載されています。子どもたちは、写真と歌詞を見ながら情景を想像し、感じるままに歌うことができるように思いました。

また、旋律とリズムの説明には、発達段階に応じたわかりやすい工夫がありました。

また、１年生の国語で学ぶ「おおきなかぶ」の歌のページでは、教科をまたいだ深い学びにつながると感じました。

さらに、「教育出版」の教科書には、６年間を通して手話に親しむことのできる「となりのトトロ」の「さんぽ」のページがあり、娘が小学校の頃、手話で「さんぽ」を得意げに歌っていたのを思い出しました。

また、オーケストラのページでは、オーケストラの配置がわかりやすく示され、ＱＲコードを読むとオーケストラで使用される楽器が一つずつ紹介され、それぞれの音色や響きを感じることができる魅力的な内容に思いました。

「教育出版」の教科書は、子どもたちが音楽を楽しく学び、好きになって欲しいという私の思いに合うと感じ、推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

私も「音楽」については、「教育出版」を推薦したいと思います。私の経験上になりますけれど、子どもたちが「音楽」の中でつまずきやすい学習の一つは、器楽にあると思います。３年生

の「音楽」を実際に自分も指導したことがありますが、ここで多くの子どもたちが悩んでいました。具体的には、鍵盤ハーモニカやリコーダーの指の使い方、これに苦労する子どもたちが多かったと思っています。

そういう視点から、私は、「教育出版」の学習の方法は、より具体的にわかりやすく、そういうふうに受け止めることが出来ました。

その他に、２者ともありましたけれど、「学習マップ」という、１年間の流れを把握するコーナーがございます。

「教育芸術社」の「ムーブの部屋」というものが、必ず単元の上部に固定されていることは、高く評価出来ますけれど、流れが見やすいのは、自分は、「教育出版」のほうであったかなと思っています。

とにかく子どもたちが、文字どおり、音を楽しむような教科書であって欲しいなと思います。

どちらの教科書も大変素晴らしいものがありますが、総合的に見て、先ほど言いましたように、私は、「教育出版」の「音楽のおくりもの」を推薦いたします。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「音楽」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「教育出版」４名です。挙手全員であります。

よって、「音楽」については、「教育出版」を採択することに決しました。

続きまして、「図画工作」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に、「図画工作」でございます。

検討結果報告書の２１ページと２２ページをご覧ください。

「図画工作」につきましては、「開隆堂出版」、「日本文教出版」の２者について検討いたしました。

どちらの教科書も、非常に魅力的な題材が配置されており、子どもたちが目を輝かせながら、ページを開く姿が思い浮かぶという意見が委員から出まして、子どもたちが造形的な見方・考え

方を働かせながら作り出す喜びを味わえるよう、「表現」及び「鑑賞」の内容や題材が適切に取り上げられているということや、学習の「めあて」がそれぞれの観点ごとに分かれて書かれていて、児童にとっても、指導者にとっても見やすく配慮がされているなど、両者とも、評価できる教科書でございました。

その中でも、「開隆堂出版」は、今までに経験したことから、段階的な学習の積み重ねができる流れとなっている点、題材ごとに他教科との関連事項が掲載されているため、教科横断的な考え方ができるという点、学習のつながりが児童にわかりやすいという点、経験を生かした学び、段階的に学ぶことができるようになっているという点、被写体が大きいなど、出ている写真が非常にダイナミックで、子どもの興味を高めるのではないかという点、表示されている「めあて」の中で、重視する「めあて」が赤く表示されていて、わかりやすいという点などから、「開隆堂出版」の評価が高いという報告がありました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「図画工作」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私は「開隆堂出版」を推薦させていただきます。

「開隆堂出版」の教科書は、写真にものすごいインパクトがあって、色の使い方も上手くて、わくわくしたというのが正直なところです。説明もわかりやすくシンプルで、まずはやってみよう、作ってみよう、踊ってみよう。そのようなイメージが湧きました。

また、５年・６年の上下にある「小さな美術館」も、絵画、水墨画、像と分かれていて、大変わかりやすく有名な作品を選んでいるので、中学校の美術にもつながってくると感じました。

「日本文教出版」さんも、写真と説明のバランスがすごくよく、わかりやすく出来ているなと思いました。また、ちゃんと考えて進めていくには、こちらの方が良いのかなということも感じました。そうすると、作品をつくったときの完成度、レベルの高い作品を作るには、こちらの方が良いのではということを感じました。

ただ結論としましては「図画工作」で作ってみよう、楽しんでみようということを考えたときの視点からいうと、「開隆堂出版」を推薦させていただきます。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、「図画工作」の教科では、子どもたちが自由にアイデアを表現する喜びを感じて欲しいと思っています。その思いから、「開隆堂出版」の教科書を推薦したいと思います。

「開隆堂出版」の教科書からは、子どもたちのいきいきとした笑顔や楽しそうな表情が伝わってきました。マスクを着用した「日本文教出版」の教科書に対して、「開隆堂出版」は、子どもたちの写真が全てマスクを外していたためかもしれません。

文字の大きさや色遣いも見やすい印象を受け、学習の「めあて」も簡潔でわかりやすく感じました。

教科書に関してはどちらの教科書もそれぞれに、子どもたちがわくわくするような教材が多く、製作過程が、写真や吹き出しによってわかりやすく説明されていました。

また、道具の扱いについても巻末の資料ページを設けるなど、丁寧に扱われていました。

美術作品に関しては、「日本文教出版」には、ピカソの「ゲルニカ」があり、高学年の子どもたちに見てもらい、戦争の悲惨さや平和の大切さを学んで欲しいと思いました。

一方、「開隆堂出版」には、葛飾北斎の「冨嶽三十六景」や「風神雷神図屏風」などの日本名画があり、自然の美しさや命の力強さなどを感じ取ることも大切な学びだと思いました。

どちらの教科書もそれぞれに魅力があり、大変悩みましたが、「開隆堂出版」の教科書を選択する決め手となったのは、「みんなのギャラリー」というページです。このページは全学年に設けられ、子どもたちが地域の伝統に触れ、地域の方々と触れ合いながら、様々な作品を作るページです。

私は娘が小学校の頃、灯ろう流しという地域のイベントに親子で参加し、地域の方から灯ろう作りを教わり、夕方に川で灯ろうを流した経験があります。その光景は、幻想的で素敵な思い出となっています。地域の方と交流し、伝統に触れることは、地域に親しみと愛着を深め、大きな喜びにつながると思います。この「みんなのギャラリー」というページが、子どもたちと地域を結ぶきっかけになったら素晴らしいなと感じました。

以上の理由から、私は、「開隆堂出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

それでは質疑・討論なしと認めます。

これより、「図画工作」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「開隆堂出版」４名です。挙手全員であります。

よって、「図画工作」については、「開隆堂出版」を採択することに決しました。

続きまして、「家庭」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に、「家庭」でございます。

検討結果報告書の２３ページ・２４ページをご覧ください。

「家庭」につきましては、「東京書籍」、「開隆堂出版」の２者について検討いたしました。

どちらの教科書も、日常生活に必要となる基礎的な知識及び技能の習得を図るために、実践的・体験的な活動を題材として取り上げる工夫や配慮が感じられる教科書で、どちらの教科書会社も、ご飯の作り方など実習の作業の手順等が写真を使い見開き２ページで示されており、見やすく書かれているということは共通しておりました。

その中でも、実技が大切な教科において、手順・段取り等が教科書を見ることでわかりやすくなっている点で、特に「開隆堂出版」は、それが見やすく示されていることなどが評価できるという意見が多くございました。

また、中学の学習との関連についても、丁寧に触れられているという点。家庭での家族の役割について、具体的に大きく写真や図を載せて示して、わかりやすくしているという点。男女に関係なく仕事をするということが具体的に示されている点など、「開隆堂出版」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは、「家庭」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、「家庭」では、子どもたちに暮らしをより豊かにして生きる力を身につけて欲しいと思います。

「開隆堂出版」と「東京書籍」、どちらの教科書も基礎的な学習から実生活で役立つポイントまで、非常に充実した内容でしたが、私は、東京書籍の教科書を推薦したいと思います。

「東京書籍」の教科書は、本文の説明が子どもたちにあわせて、心に響く言葉で書かれているため、内容がすっと頭に入るように感じました。

特に、学習内容が複雑な栄養素のページは、資料を効果的に使いながら、とてもわかりやすく説明されていました。

「家庭」などの実技教科の教科書は、実習内容の載せ方などに目が行きがちですが、本文までしっかりと読ませていただきましたところ、私は「東京書籍」の教科書が簡潔明瞭でわかりやすく、子どもたちの理解が深まるように感じました。

実習面では、みそ汁の調理実習の際、具を入れる順番について、火が通りやすい順に入れましょうという説明にプラスして、他にどんな具材をどういう順番で入れれば良いか、写真付きで丁寧に説明されていました。これは、料理初心者にはとても役立つ内容だと思います。

また、巻末の技能実習ページには、野菜の切り方一覧があり、例えば、ニンジンの短冊切りなどは、単にニンジンを短冊切りにした写真を載せるだけではなく行程もきちんと図で説明されていました。さらに動画がついているので、初めて包丁を持つ子どもたちでも取り組みやすいと感じました。

また、裁縫についても、複雑なミシンの上糸掛けなども、手順も大きな図と動画を用いて丁寧に説明されている点が好印象でした。

さらに、消費者教育では、インターネットでのお買物の便利さについて触れる一方で、その危険性と消費者センターについてもしっかりと厚く扱われており、「地域につなげよう！」、「広げよう！」では、地域の幼児や高齢者などに対して、思いやりを持って関わることの大切さが示され、「家庭」の学びが、より豊かな生活を築き、ＳＤＧｓの実現につながることが実感できるように感じました。

「家庭」は、まさに人を思いやり、生き抜く力を身につける教科であると思います。私は、その教科書として、「東京書籍」の教科書を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

「家庭」の教科書は、子どもたちが生活する上で必要な衣食住の基礎を学ぶものなので、実生活でも活用出来て、わかりやすい教科書でなければと思いましたが、どちらの教科書も、生活の中から問題を見出し、課題設定をし、解決していく題材としての工夫や配慮と、四つの視点による見方、考え方がわかりやすく示されていて、とても良いつくりになっていましたので、どちらかを選ぶということには非常に悩みました。

「開隆堂出版」は、調理の中で、給食における食物アレルギーに注意が必要な子どもたちの心情に寄り添うような説明や取組、除去食や代替食についても詳しく説明されていました。

また、どちらの教科書も、ＱＲコードのコンテンツがとても充実していて、お裁縫の玉結びや

手縫いの方法、ミシンの使い方などの映像による説明が見られるので、とてもわかりやすくなっていると思います。

「東京書籍」は、お茶の入れ方についてのところで、緑茶だけでなく、玄米茶やほうじ茶、抹茶、様々なお茶の種類と特徴、それぞれの適用などまで詳しく解説され、同じように、お味噌についても、種類だけでなく、原料についても、表でわかりやすく説明されていました。

包丁の使い方や、様々な野菜の切り方については、ＱＲコードを使って確認することも出来ました。

また、単元によって、ところどころに、防災における日々の備えについての解説が掲載されていました。例えば、ご飯を炊いてみようでは、災害時、電気やガスが止まっても、ご飯は炊けるんだよと、学校の行事やキャンプの時に、外でご飯を炊く経験を促しながら、その方法として、カセットコンロと土鍋や薪と飯ごうなどの使い方も説明していたり、常温で長期保存できるレトルト食品や缶詰を使ったレシピなども紹介されたりしていました。

単元の中に、さらにもう一歩踏み込んだ説明や資料などを感じられる教科書だと思いました。

以上のことから、私は「東京書籍」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

私は、「家庭」については、結論から申し上げますと、「開隆堂出版」を推薦したいと思います。推薦の理由の一つに、様々な学習の中で、いろいろな調理や、あるいは裁縫といった作業を伴うものがございます。その手順がとても私にはわかりやすく思えました。

具体的に申し上げますと、ご飯づくりの鍋の中で、ご飯が炊ける手順が載っています。透明の鍋を使って、時間的経過を追って炊ける様子が書かれていました。とても、流れが分かる、見えるということは、今まで余り出会ったことがありませんでした。そういう意味から、とても高く評価したいと思います。

それからもう一つは、当然、お話があったように、「東京書籍」のほうも、安全面や衛生面、そういったものには配慮がございましたけれど、中学校との関わりとか、日常の生活の中の関わりということについて、私は、「開隆堂出版」が明確に示されているなと思い、その点も大変わかりやすいと思いました。

以上のことから、総合的に判断して、最初に言ったとおり、「開隆堂出版」の「私たちの家庭科５・６年」の教科書を推薦いたします。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

それでは質疑・討論なしと認めます。

これより、「家庭」について採決いたします。

それでは、発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」２名です。

「開隆堂出版」２名です。

ここまでで、全委員の挙手が終了しましたが、過半数に達しておりませんので、私の意見を述べさせていただきます。

まずどちらの教科書も学習指導要領を基に、５年生では基礎基本、６年生では発展的な学習と、段階を踏んで、問題解決的な学習が展開できるような構成となっておりました。

また、「家庭」の実技である調理や裁縫に関しては、作業の手順がわかりやすく工夫されて示されていました。

その中で児童がより主体的になることができ、深い学びができるために、「家庭」の教科書では、次の２点に注目しました。

一点目としては、データや資料が豊富で、色彩が鮮やかで、より子どもの関心を引きつけるものであること。

二点目は、ＩＣＴ機器を効果的に活用し、実技の基礎・基本を確実に押さえることができること。特にこの二点目に関しては、デジタルコンテンツが充実しており、調理や製作の手順が細かく丁寧に説明されていて、しかも、左利き用の動画がより充実しているなど、左利きの児童への配慮がよりなされていることにも注目しました。

以上のことを総合的に評価して、私は「東京書籍」を採択することに賛成であります。

よって、「家庭」については、「東京書籍」を採択することに決しました。

続きまして、「保健」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に「保健」でございます。検討結果報告書の２５ページから２７ページをご覧ください。

「保健」につきましては「東京書籍」、「大日本図書」、「大修館書店」、「文教社」、「光文書院」、「学研」の６者について検討いたしました。

どの教科書にも、児童が運動や健康に関する課題を発見し、主体的に課題解決に取り組めるような工夫がございました。

中でも、「東京書籍」は、各内容を、スモールステップで段階的に構成し、児童が取り組みやすいようにする工夫がありました。また、身近な生活場面を想起させる写真やイラストを提示し、児童が身近な例から、健康についての課題を見つけることができるように構成されておりました。

「大修館書店」は、学習の広がりや深まりを目指したコーナーを掲載している点、スマートフォンの危険性について事例を掲載している点の工夫がございました。

「光文書院」は、各ページの終わりに、その時間で学んだことを実生活に結びつけて考えさせる投げかけが明確に書かれており、教科書に書き込みができるように工夫されている点がございました。

まとめますと、児童に気付きを促す仕組みが出来ており、気付く、見つけるという形で、わかりやすく示されている点、また、４つのステップやわかりやすい写真やイラストから気付きが促せるような仕組みが出来ているテーマ、スポーツ選手が緊張をコントロールする工夫や、交通事故の危険性をインパクトのある形で示しているという点で、「東京書籍」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「保健」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

「保健」は、子どもたちの心と体が健康で幸せに成長するために、とても重要な教科だと思っています。そのような思いで私が選んだ教科書は、「東京書籍」です。

「東京書籍」は書き込み欄がたくさんあるため、ワークシートのように使うことで、自分自身の健康や生活について深く考え、学ぶことができるように感じました。

教科書のページ構成は、全て一単元４ステップに分け、４ページで構成されています。さらに資料ページも常に定位置で、パターン化されているため、非常に見やすく、主体的に学びやすいと感じました。

特に、感染症予防の単元では、新型コロナウイルス感染症についても、資料のページを設けて、しっかりと触れられていました。ＱＲコードの動画では、予防接種のワクチンについての説明もありました。さらに、感染症に対して、正しい情報を入手し、慎重に行動することや、インターネット上には、正確でない情報もあるので、注意が必要なことなども丁寧に説明がありました。

また、心の健康のページでは、国枝慎吾選手からのメッセージも掲載されており、子どもたち

の力になると感じました。

以上の理由から、私は「東京書籍」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

どちらもイラストや写真、事例などの資料がとてもわかりやすく、読みやすいつくりになっていると思います。

「東京書籍」は、色遣いやページ上の配置が見やすく、導入の写真やイラストは日常生活を想像させ、子どもたちの興味や関心を引き出すつくりになっていました。特に、感染症の予防については、イラストや資料がとてもわかりやすく、詳しく書かれていて、正しい知識と予防のスキルが豊富に掲載されていると思います。

そして、「光文書院」ですが、子どもたちが「保健」の学習内容を、これからの将来や社会の在り方と結びつけて、深く理解し、積極的に学び続けられるようなつくりになっていました。紙面が知識の習得から考えて話し合う活動、そして振り返りという思考の整理と同じ流れになっているので、子どもたちも見通しが立てやすいと思います。

また、５年生の「心の健康」では、「人との接し方を考えてみよう」というページで、生命の安全教育の視点や友だちとのコミュニケーションの取り方についても、手厚く扱われていました。どの子どもたちも一度は感じたことがあるような不安や悩みに対して、具体的な対処が掲載されていました。

以上のことから私は、「光文書院」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も、「光文書院」を推薦させていただきます。

この科目自体、興味を持ってもらいたいというところが、私は大事かなと思っております。「保健」というとどうしても、何か日常の中であるところで興味を引くということは、どうしても弱いような気がしていまして、この「光文書院」に関してはその中で、テーマごとに４コマ漫画からスタートさせ、この４コマ漫画の中で問いかけということを行っており、内容がわかりやすかったと。その問いかけに対して、習ったことを実際どのように生かしていくのかということを、

教科書に書けると。後で見返したときに、こういうことをやったなというのは漫画から実際自分が書いた文字に対してつながっていくということが、すごく良いと思いました。

またこの「光文書院」の教科書製作にあたり、「見つける」、「知る」、「生かす」の流れが、物事を考える力、ひいては生きる力につながってくると感じましたので、「光文書院」を推薦させていただきます。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

私も、「保健」につきましては、「光文書院」を推薦したいと思います。

先ほどもお話がありましたように、「保健」は、心と体の健康を扱う学習で、とても大事な学習の一つだと思っています。ただ子どもたちの様子を見ると、大事な学習ではあるけれども、ややもすると敬遠されてしまうような感じがします。

それは、内容が難し過ぎるというのが一つあると思いますけれど、「光文書院」さんは、先ほどもありましたように、導入というか、親しみが持てるような工夫として、４コマや６コマの漫画を活用しています。いくつかの漫画を読んでみましたけれど、大変引き込まれるような内容で、子どもたちが、学習の「めあて」を持てるようになっていると感心いたします。

それともう一つは、写真とイラスト、さらには図解、こうしたものをそれぞれの出版社の皆さんは使っていますけれど、非常に「光文書院」は、わかりやすく説明していると感じました。要所要所に「学んだこと生かそう」や、「さらに広げよう、深めよう」というコーナーがありました。考えたり、まとめたり、あるいは書いたりするようになっています。これも大切にしたい部分だと私は感じております。

以上のことから、私は、「光文書院」の「小学保健」の教科書を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

それでは質疑・討論なしと認めます。

これより、「保健」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」１名です。

「大日本図書」０名です。

「大修館書店」０名です。

「文教社」０名です。

「光文書院」３名です。

ここで、全委員の挙手が終了し、「光文書院」挙手多数でございます。よって「保健」については、「光文書院」を採択することに決しました。

ここで暫時休憩といたします。再開は１６時といたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは会議を再開いたします。

続きまして、「英語」について、審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

次に、「英語」でございます。

検討結果報告書の２８ページから３０ページをご覧ください。

「英語」につきましては、「東京書籍」、「開隆堂出版」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書出版」、「新興出版社啓林館」の６者について検討いたしました。

どの教科書も、中学校とのつながりを確実に踏まえ、デジタルコンテンツを豊富に導入し、子どもたちの興味・関心を引き出すつくりの教科書になっておりました。

中でも「東京書籍」は、ページの左上にその単元の目標を記載し、右下に自分の目標設定ができるようになっており、次のページで、様々な言語活動として定着を図り、次のページで、アウトプットの場を設けるなど、見通しを持って、スモールステップで各活動に取り組むことができるように工夫されておりました。

また、それぞれの教科書で書くスペースがたくさんとってあるものもあれば、補助的にプリントやノートを使うことを前提にして、教科書内には、あまり書くスペースを取っていないものもございます。

綾瀬の子どもの現状を鑑みると、市内１０校共通で、最低限、書くことが示されている方が良いという意見が多くございました。

まとめますと、綾瀬の子どもたちの実態を踏まえて、書くことも含めて、バランスよく扱われており、市内統一で、最低限書くことが示されている方が良いという点。学習の流れも明確であるという点から、「東京書籍」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

それでは「英語」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

３年生までの楽しいＡＬＴのような授業から、初めて教科になり、成績もつくことになる５年生からの「英語」の教科書は、中学への大切な接続期間でもあるので、第一に、楽しみながら学べること、苦手意識を生まない授業が大切なのではないかと考えています。

今回、どの教科書も、子どもたちが目的を持って話せる工夫や、会話を楽しむことができるような写真やイラストの構成など、素晴らしいつくりになっていました。

その中で特にこれをと思った教科書会社は２者ありました。

「東京書籍」は、別冊の辞書がとても見やすく、単語も豊富に掲載されていて、子どもたちがわからない単語を調べる時にとても使いやすいのではないかと思います。アルファベットなど、単語の学習もスモールステップで丁寧に進めていけるようになっていて、言語活動についても目的・場面・状況をきちんと設定して、学習内容の定着を図れるつくりになっていると思いました。ただ、書き込みが少し多いのかなとも思いました。

もう１者は、「光村図書出版」です。楽しく会話するための工夫が、あちこちに見受けられました。導入ページには、その単元のゴールまでの道のりが分かるように示され、ＱＲコードをかざすと、すぐにそのページへ飛ぶことができるので、余計な操作をする必要もなく、すんなり会話に入れるつくりになっていたのも、良い点の一つでした。

最終ページに付いていたカードと辞書も、学習を楽しくするための大切なツールだと思います。教科書の配置や色遣い、適度な書き込みもちょうど良いと思います。

以上のことから、私は「光村図書出版」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見等はよろしいでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

私も、「英語」については、「光村図書出版」を推薦したいと思います。

個人的なことになってしまうかもしれませんが、反省として、自分を振り返ってみたいと思います。

中学校、高校、大学と、１０年間、英語の学習をしてまいりました。でも、今、英語を使って会話することが出来ません。小学校の外国語の目標は、コミュケーションが図れるための技能を

身に付けたり、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる、基礎的な力を養うこと、そして、自分から進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことと、学習指導要領に書かれております。

私はそういう視点から考えたとき、「光村図書出版」は、発音や会話を大事にしながら、全ての部分のバランスがよくとれていると思っています。

３・４年までの外国語活動をより充実・発展させていってほしいと望んでおります。危惧する部分は、私のように、英語を苦手にする子どもたちが小学校まで下りてこないようなことと考えています。

そういうことから、私は、書くことも大事、それも学ぶべきと思いますが、会話を大変重視している「光村図書出版」を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見等はよろしいでしょうか。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、子どもたちが「英語は楽しい」、「もっと学びたい」と思うような教科書として、「東京書籍」を推薦したいと思います。

「東京書籍」は、会話文を重視した作りで、コミュニケーションを通して楽しく学ぶことが出来ます。様々な学びの工夫があり，巻末のカードなども活用出来ます。会話に必要なリスニング、スピーキングだけでなく、中学校に向けて、ライティングもバランスよく配置され、しっかりと学習できるように感じました。

特に素晴らしいと思った点は、動画コンテンツが充実していることです。各ユニットのスタートページには、アニメーション映像があり、子どもたちは、英語のストーリーを聞いて内容を理解し、それを日本語で書く構成になっています。

この作業は、集中力が必要で、リスニングがしっかりと身に付くように思いました。さらに、学習内容に合わせた子役によるモデル映像があるので、実際のコミュニケーション英語に近い形で学ぶことができるように思いました。

また、動画コンテンツの操作性について、一部の教科書では、ホーム画面に戻るボタンがないため、ユニットごとにページを開かなければならないものもありましたが、「東京書籍」の教科書は、操作性もよく、動画コンテンツの内容も非常に充実しているため、より深い学びができるように思いました。

これらの動画は、「英語」の授業だけでなく、家庭でも同じ内容を見ることが出来ます。子ど

もたちが学校の中だけでなく、家庭や日常生活の中でも、英語によるコミュニケーションの機会を増やし、楽しみながら英語を話すことができるようになることを期待しています。

以上のことから、私は「東京書籍」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私も、「東京書籍」を推薦させていただきたいと思います。

会話やヒアリングに関してはＡＬＴの授業でも行っています。そこから、中学校に飛んでしまった場合に、壁がすごく高いと思うんです。外国語というところで中学英語とのつながりを重視した時に、「東京書籍」は、まず自己紹介から始まって、日本の説明があるのですけれども、ＡＬＴで習っていますから子どもたちも英語で説明すると。日本語で自分をイメージして英語に変えていく。１回トランスレートしているんですね。これはイメージしてから英語にしやすい形となっているので、記憶に残りやすいと思いました。その中でそれを教科書内に日本語と英語で記述する部分が多く、英語の覚え方で書いて覚える、聞いて覚える、見て覚えるというところが、やっぱり中学校に入った時にそこで壁にぶつからない。緩やかに伸びる坂道を作っていると感じましたので、「東京書籍」を推薦させていただきます。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見等はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「英語」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」２名です。

「開隆堂出版」０名です。

「三省堂」０名です。

「教育出版」０名です。

「光村図書出版」２名です。

ここまでで全委員の挙手が終了しましたが、過半数に達しておりませんので、私の意見を述べさせていただきます。

まず、どの教科書も、中学校の英語科とのつながりを踏まえたものとなっていました。そして、どの教科書も、「英語」への興味・関心を持たせるための工夫がなされていました。

ところで、高学年から教科として教科書を使って英語がスタートしますが、英語嫌いの児童が増えることは、絶対に避けなくてはいけないと考えています。一方、中学生になると、書くことも、どうしても重視されます。そういった点では、なぞり書き、あるいは写し書きによって、英語を書くことに慣れておくことも、重要になってくると考えております。

そういった点も踏まえて「英語」の教科書では、次の三点に注目しました。

一点目は、なぞり書きや写し書きなどの、書くことの練習量に力点を置いているか。二点目は、スモールステップで各活動に取り組むことができるよう工夫されているか。三点目は、教科書と同じ大きさの別冊があり、書き写しがしやすい工夫がされているか。

以上の三点から、私は、「東京書籍」を採択することに賛成であります。よって、「英語」については、「東京書籍」を採択することに決しました。

それでは最後に、「道徳」について審議を行います。

事務局の説明を求めます。教育指導課長、お願いいたします。

○教育指導課長（渡邊倫康君）

最後に「道徳」でございます。

検討結果報告書の３１ページ・３２ページをごらんください。

「道徳」につきましては、「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書出版」、「日本文教出版」、「光文書院」、「学研」の６者について検討いたしました。

どの教科書も、構成や狙いをわかりやすく示して、指導の効果を上げる工夫があり、児童がよりよく生きていくための資質能力を培うための工夫が見られました。

中でも「光文書院」は、「神奈川教育ビジョン」に示された、「思いやる力」について、複数の教材と関連づけて、いじめ、人権を考える学習活動が設定されており、教材数も４０と他社よりずっと多く掲載されておりました。また綾瀬の地域に根差した教材も掲載されておりました。

まとめますと、興味を引き出すつくり、それから、考えをまとめ、広げようという学びの仕方が、４年間続けている綾瀬の授業に即している点、綾瀬市に関連した教材を扱っている点、教材数が４０教材と多く、実態にあわせて選べるようになっている点、いじめを扱っている点、「道徳」の学びについて詳しく書かれている点、考え方のツールが示されている点、また、登場人物がイラストで書かれている点など、良い点が多く、「光文書院」の評価が高いという報告がございました。以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

「道徳」に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いいたします。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

私は「光文書院」を推薦させていただきます。

先ほどから、授業というのは興味をどう持ってもらうか、「道徳」に関しても、興味を持ってもらう、また覚えてもらって、大人になった時にこういうことあったな、というところで授業が進められるかという観点で見ました。

「光文書院」に関しては、最初からアンパンマンやウォルト・ディズニーなど誰もが知っている人を最初に持ってきて、子どもたちの興味を引くと。また２年生では、さかなクンや安藤百福さん、これはカップラーメンの開発者の方の話が載っていまして、身近な人物が載っているというのも良いと思います。

実際この人たちに興味があれば、神奈川県内で見たり調べたりすることができると。実際、カップラーメンミュージアムもありますし、かなり身近なんですね。だからそういう面では「光文書院」が良いと思います。

ただ他の「道徳」の教科書の「光村図書出版」に関しても、「国語」の教科書との連動性というのが必要なのかなといった時に、「国語」と「道徳」の親和性が高いのですごくわかりやすい。文字も大きくて、色もやわらかく、わかりやすいなと思いました。

「学研」は、偉人の話が多くて、大人になった時に影響を受けそうな人たちを選んでいるので、自分から見た場合に素晴らしい選択をしているなと感じました。

どれも素晴らしい教科書ではあったのですけれども、やっぱり子どもたちが興味を持てる内容、身近な題材を扱っているところから、「光文書院」を推薦させていただきます。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見等よろしいでしょうか。

亀ケ谷委員。

○委員（亀ケ谷由美子君）

「道徳」とは、子どもたちの心を豊かにし、自分の気持ちを大切に、相手に対して思いやりを持てるよう学習することのできる教科だと思います。

「光文書院」は、綾瀬市にゆかりのあるさかなクンの「ミーボーしんぶん」を始め、地域に馴染み、子どもたちに親しみのある内容の読み物がたくさん掲載されていました。

また、全般にわたって、つまずきそうになったときの心の立て直し方や、命について考えさせられる題材が一番多く載っていたのが「光文書院」だと感じられました。

また、各学年の巻末には、相田みつをさんの文章があり、心に響くページでした。子どもたちの様々な感情に訴えかける生きた言葉がたくさんありました。

以上のことから、私は「光文書院」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見はよろしいでしょうか。

平出委員。

○委員（平出恵子君）

私は、「道徳」の教科書は、「光文書院」を推薦したいと思います。

まず、最初のオリエンテーションのページでは、「道徳」で学ぶ豊かな生き方と、なりたい自分をイメージし、授業に臨むことができるように思いました。

学習の進め方としては、各章の題名の横に問いがついているため、目的意識を持って読み進めることができ、教材の最後には「かんがえよう」、「まとめよう」、「ひろげよう」という課題があるため、主体的・対話的で深い学びにつながるように感じました。

また、情報モラルの学習では、１年生からスマートフォンやゲームを使う際のルールについて掲載されていました。早い段階から、情報モラルや情報セキュリティについて学ぶことは非常に重要だと思います。

他にも、魅力的な教材が大変多く、命をテーマにした作品は涙を誘うものがありました。特に、池江璃花子選手の作品では、「どんなつらいときでも、きっとその先によろこびがある」という言葉が、子どもたちの心に響くことと思いました。

さらに、各学年の最終ページには、言葉の宝物として、相田みつをさんの詩が掲載されていました。

６年生の詩が、あの有名な「つまずいたっていいじゃないかにんげんだもの」です。優しいイラストと共に、とても素敵なページで、子どもたちには、これらの詩を読んで様々なことを感じ、自分らしく成長して欲しいと思います。

以上の理由から、私は「光文書院」を推薦したいと思います。

○教育長（袴田毅君）

他は、いかがでしょうか。

田中職務代理。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

「道徳」については、３名の委員さんと同様、「光文書院」を推薦したいと思います。

この「特別の教科　道徳」で使われる教科書は、「道徳」の時間に使用されるものであります。

その「道徳」の時間は、道徳的な価値について、友だちと話し合ったり、あるいは自分の行動を振り返ったり、葛藤しながら、自分自身を見つめ直す大事な時間だと自分は考えています。そして、より良い方向へ対応していく、いわゆる道徳的実践につなげていく時間として、とても大事な時間だと受け止めております。

その使われる資料につきましては、なぜ「光文書院」を推すかというと、その題材の数の多さです。各学年とも４０ずつほど載せられております。それだけ学校や児童に合わせた選択が可能になると私は考えています。綾瀬では、これまでの「道徳」の取組として、綾瀬市の道徳自作資料を長年に渡って使ってきています。これとあわせて、よりその学校の実態に合わせた、資料の選択ができると思っています。

そして、４０ほどある題材の中を見てみますと、これも、他の委員さんからもお話がありましたけれど、神奈川県に関わる題材が非常に多いと感じました。

一つは、私たちの綾瀬で幼少期を過ごした、さかなクンの「ミーボーしんぶん」、それから相模原市の小学校の校歌を取り上げた「『一つの青』に願いを込めて」といったものがたくさんあります。

子どもたちの心の琴線に触れるためにも、こういった地域に実は根差した題材を、私自身は薦めていきたいなと思っています。

以上のことから、私も、皆様と同じように、「光文書院」の「小学道徳　ゆたかな心」を推薦いたします。

○教育長（袴田毅君）

他に、ご意見等はよろしいでしょうか。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、「道徳」について採決いたします。

それでは発行者名を順に読み上げます。

「東京書籍」０名です。

「教育出版」０名です。

「光村図書出版」０名です。

「日本文教出版」０名です。

「光文書院」４名です。挙手全員であります。

よって、「道徳」については、「光文書院」を採択することに決しました。

以上で小学校教科用図書の全ての種目の採択が終了しました。これにて、「第１９号議案　令和６年度使用小学校教科用図書の採択について」の審議を終了いたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第３　第２０号議案　令和６年度使用中学校教科用図書の採択について」、この件を議題といたします。

それでは本件に関して説明を求めます。教育部長、お願いいたします。

○教育部長（長谷川裕司君）

それでは、「第２０号議案　令和６年度使用中学校教科用図書の採択について」、ご説明いたします。議案書の３ページをご覧ください。

提案理由でございますが、中段に記載のとおり、令和６年度使用中学校教科用図書を採択するため、綾瀬市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第２条第１項第１４号の規定により提案するものでございます。

中学校教科用図書につきましても、小学校教科用図書と同様、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第１４条の規定により、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとし、その採択期間は４年間となっております。

現在中学校で使用している教科用図書は、令和２年度に採択され、令和３年度から令和６年度までの４年間使用することとなっております。

本年度は、採択替えの年ではありませんが、採択替えの有無にかかわらず、毎年度採択することとなっておりますので、令和６年度に使用する教科用図書について、議案書４ページの一覧表に記載のとおり、令和２年度に採択したものと同一の教科用図書を採択することについてお諮りするものでございます。

以上で説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは、第２０号議案に関しまして、質疑・討論がございましたら、お願いいたします。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより第２０号議案を採決いたします。

本件を原案のとおり決することについて、賛成の委員の挙手を求めます。

（　委員の挙手確認　）

○教育長（袴田毅君）

挙手全員であります。

よって本件は原案のとおり可決されました。

○教育長（袴田毅君）

「日程第４　第２１号議案　学校教育法附則第９条の規定による令和６年度使用教科用図書の採択について」、この件を議題といたします。

それでは本件に関し、説明を求めます。教育部長、お願いいたします。

○教育部長（長谷川裕司君）

それでは、「第２１号議案　学校教育法附則第９条の規定による令和６年度使用教科用図書の採択について」、ご説明いたします。

議案書の５ページをご覧ください。

提案理由でございますが、中段に記載のとおり、令和６年度使用小・中学校特別支援学級の教科用図書を採択するため、綾瀬市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第２条第１項第１４号の規定により提案するものでございます。

特別支援学級の児童・生徒につきましては、学校教育法附則第９条の規定により、６ページ以降の教科書目録に記載のもののほか、障がいの種別や程度に応じ、指定された教科用図書以外の一般図書を教科書として使用することが認められております。

以上で説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは第２１号議案に関しまして、質疑・討論がございましたら、お願いいたします。

（　質疑等の有無確認　）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより第２１号議案を採決いたします。

本件を原案のとおり決することについて、賛成の委員の挙手を求めます。

（　委員の挙手確認　）

○教育長（袴田毅君）

挙手全員であります。

よって、本件は原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩といたします。なお、再開後の審議につきましては、非公開審議となりますので、傍聴者におかれましてはご退席いただきますようお願いいたします。

（　関係者以外の退席　）

非公開の審議

○教育長（袴田毅君）

以上で、本日の日程は終了いたしました。

これにて、綾瀬市教育委員会会議７月定例会を閉会いたします。

午後４時４３分　閉会